

政策評価の実践・集中コースのご案内

各省庁・自治体でエビデンスに基づく政策決定(EBPM)を実行しようとの取り組みが始まっています。同時に民間企業においてデータを利用したビジネスの意思決定を行うという取り組みも加速しつつあります。これらの取り組みには社会科学的思想を生かした因果推論を行う必要があります、その初歩的な知識は考え方は、伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』や中室牧子・津川友介『「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法』などの良書の普及によって広まりつつあるものの、それらの知識を日常の職務において生かすためには、データ分析を実践し知識の定着を図る必要があります。このたび東京大学大学院経済学研究科附属政策評価研究教育センターでは少人数による演習を取り入れた講義を行うことで、実務に携わる方々の EBPM 実践を支援いたします。

なお新型コロナウイルス感染症拡大防止のためZoomを用いた講習となります。

<想定する参加者>

- ・中央官庁・地方自治体・それに類する非営利団体において EBPM を統括するもの・担当する方々
- ・データ分析を使って解決すべき具体的な問題を持っている方々

<参加条件>

- ・統計学・数学の知識は想定しないが、アレルギーがないこと
- ・ワード・エクセル・パワポなど基礎的な PC スキルのあること
- ・上記あるいは同等のソフトウェアがインストールされ、インターネットに安定的に接続されたPCがあること
(セミナー中に、フリーソフトであるR並びにR studioのインストールを行いますので、基本的には行政端末の利用はできません)
- ・2日間とも受講できること

<受講料>

無料

<ソフトウェア>

フリーソフトであるR並びにR studioをインストールしていただきます

<講師>

- ・東京大学大学院経済学研究科附属政策評価研究教育センターセンター長 川口大司
(公共政策大学院の計量経済学を担当し、3期連続で The Best Teacher's Award を受賞)

政策評価の実践 集中コース

カリキュラム

11/20 金曜日 10:00-18:00

10:00-11:30 政策評価の考え方（講義）

政策変数(X)と目標変数(Y)

データの獲得（業務データ・政府統計）・データの設計

政策評価モデルとしての単回帰モデル

単回帰モデルにおける内生性とリサーチデザインによる克服

-社会実験による克服

-自然実験による克服

-重回帰モデルによる克服

11:30-12:30 昼休憩

12:30-14:00 グループ作業（演習）

職場における政策課題

-課題の背景

-誰が分析結果を使うのか？分析結果に基づいてどのようなアクションを取るのか？

-政策変数と目標変数の抽出

-利用可能なデータのリストアップ・データの設計

-想定される内生性

-実行可能なリサーチデザインの考案

-目的・データ・リサーチデザインを三位一体で考える

-発表者を選び、パワポで10分発表資料を作る

14:30-16:00 グループ発表

16:30-18:00 Rを用いたデータ分析入門

-Rのインストール

-PIAACデータのダウンロード

-データクリーニング

-記述統計量の作成（学歴別賃金など）

-グラフの作成（年齢ごとの平均賃金プロットなど）

11/27 金曜日 10:00-17:00

10:00-11:30 単回帰モデルの推定と統計的推論（講義）

- 単回帰モデルの推定
- 単回帰モデルの統計的推論
- 単回帰モデルを用いた平均値の差の検定
- 単回帰モデルにおける脱落変数バイアス

11:30-12:30 昼休憩

12:30-14:00 重回帰モデルの推定と統計的推論（講義）

- 重回帰モデルの推定と統計的推論

14:30-15:30 Rを用いた回帰分析の実践（グループ演習）

- PIAAC を用いた過去 1 年間の職業訓練への参加が賃金に与えた影響の推定（各個人が作業する）

15:30-16:30 R を用いた回帰・マッチング分析の実践（グループ演習）

- 推定結果についてのグループ内での議論
- 推定結果の取りまとめとスライドの作成

16:30-17:00 結果を発表・議論

一つのグループをランダムに選んで結果を発表、議論